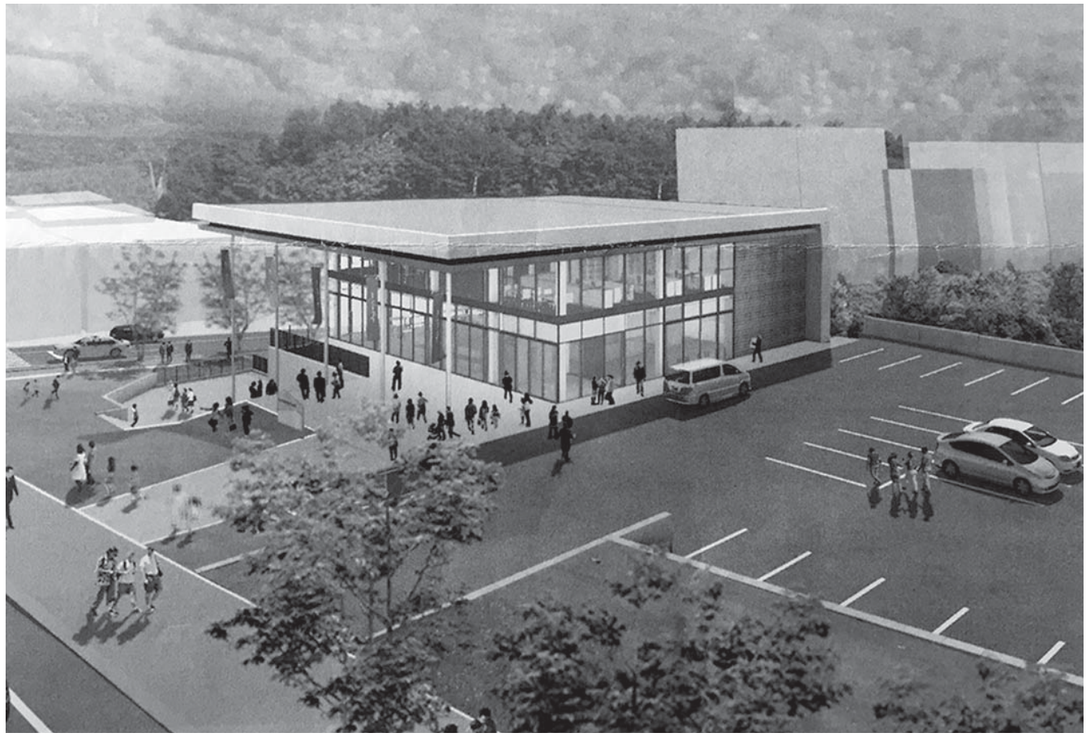
特集

どうなった ひらふ高原地区観光中核施設

経済建設常任委員会



ひらふ高原地区観光中核施設イメージ図

平成30年12月に、ニセコひらふ地区で竣工を予定している観光中核施設。この事業は、国の「社会資本整備交付金事業」として認定されており、平成26年度から30年度までの5か年度を1期とし、ニセコひらふエリアの道路整備や案内看板整備などが行われ、そのメイン事業が観光中核施設です。

観光中核施設は、敷地面積2433・92㎡に建築面積647㎡、総床面積1089・34㎡、22台収容可能の駐車場を完備し、住民からの要望にあった送迎用のマイクロバスが旋回して出ていけるレイアウトとなっています。

地下1階、地上2階の施設となり地下には冬季の臨時交番や、消防隊員、団員の待機事務所と消防車庫が整備されます。

1階は観光インフォメーションセンターとなり、観光協会運営の観光案内カウンターと、イベントも行えるスペースとなります。

2階には観光課や観光振興団体等のオフィススペースに併せ、最大70名程度を収容できる間取り変更が可能な会議スペースとなります。

基本設計、実施設計はプロポーザル方式で選ばれた（株）北海道日建設計が担当。10月2日、指名競争入札が行われましたが、公示から入札までの期間が短く、見積精査時間が取れなかった等の理由から不調（予定価格に収まらず、不成立）に終わりました。

二度目の入札を行う前に設計担当者を含め、設計内容や積算見積など見直しの必要性などについて意見交換を行いました。見積精査時間が十分に取れる次回の再入札については、問題はないとの見解が設計担当者から示されました。

しかし10月12日、再度入札が行われましたが不調となり、町は入札方法を指名競争入札から一般競争入札へ、分離発注から一括発注に変更する方針を委員会に報告。（11月2日現在）

しかしニセコひらふ地区は工事の期間に制限があり、12月21日から3月30日まで外構工事が行えません。基礎工事を含め9ヶ月しか工期が無いため、次回の入札条件を丁寧に見極めるよう行政側と話しています。

平成30年度中に竣工しなければ、社会資本整備交付金事業の交付対象外となり、既に交付された金額についても国へ返還する必要が出て来ます。

観光中核施設は基本・実施設計費用およそ4000万円を含め総事業費が7億2310万円の予算。この事業に対する交付予定額はおよそ1億5000万円。その他これまで交付済みの事業費はおよそ5000万円となっています。

1階内部のイメージ図

2階内部のイメージ図

議長室からこんにちは

1年を締めくくる12月。クリスマスに年末といった一大イベントもあり、新年を迎える準備に誰もが忙しく過ごす時期でもあります。この1年は皆様にとってどのような年でしたか？この「議長室からこんにちは」をお届けするのは12月1日ですが、もう一度チラシの裏でいいですから、今年1月からどんな出来事があったのか書き出してみましょう。悪いことばかりではないはずです、楽しいこともいっぱい思い出しましょう。

大事なのは今年やり損ねたこと、やらなければならないことを書き出して残りの1カ月でやり遂げましょう。頑張って悔いのない1年にしましょう。

役場の正面玄関で色んな方に出会います。その中でお腹の大きなお母さんと出会いました、重そうなお腹です。12月の出産かな？12月は忙しい年末というイメージをもつ方も多いかも知れませんね。しかし、この季節は自然の寒さが作り出す素晴らしい粉雪の結晶など、キラキラと輝く美しい時期です。その中で新しい命が誕生する、何と素敵ではないでしょうか。

倶知安町では来年4月に木をふんだんに使い、ぬくもりを感じられる新しい保育所が開所します。また、認定こども園として、倶知安幼稚園2210名、藤幼稚園160名、めぐみ幼稚園90名という規模でオープンします。土曜保育も藤幼稚園・めぐみ幼稚園（倶知安幼稚園は実施済）でも対応できるよう、一生懸命整備を進めています。これでほぼ待機児童も解消されることでしょう。

しかしながら待機児童が解消されるには深刻な保育士不足問題があります、募集してもなかなか集まりません。子どもたちが安心して通えるよう、皆様の周りで保育士の方がいらっしゃいましたら、ぜひ声を掛けてくれませんか。よろしくお願いいたします。

年末には早いですが、今年1年ありがとうございました。議員も町長も役場職員も「何としても住みよい街にしたい」そして「子どもたちに優しい街にしたい」と、みんなそう思って日々頑張っています。

倶知安町議会議長
鈴木　保昭